

教科(科目)	外国語（英語コミュニケーションⅠ）	単位数	4単位	学年	1学年
使用教科書	Heartening English Communication I New Edition（桐原書店）				
副教材	Heartening English Communication I New Edition 学習ノート（桐原書店）／Reading Flash 1（桐原書店） Focus on Listening Basic Ver.2（エミル出版）／英単語・熟語 Bricks 1（いっずな）／Garden 英語総合問題演習 course A（桐原書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる人間に育てる。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい人間に育てる。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい人間に育てる。
カリキュラム・ポリシー	①1・2学年では全員が共通の科目を学び、広く基礎的な知識・技能を身につけます。 ②3学年では選択科目を多く設置し、個々の興味・関心を進路目標に合わせ科目を選択し学びます。 ③授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの授業、ICTを積極的に活用しわかりやすい授業を実践します。 ④長岡市との「探究学習の推進に関する連携協定」のもと、地域の大学、企業、行政と連携し、地域資源を活用した生徒主体の探究活動を実践します。 ⑤学校行事や部活動では、安全安心な環境を整備し、生徒の主体的な活動を支援します。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 指導の重点

基礎力育成と英語によるコミュニケーション力の育成の観点から、以下のことを目指す。 ①自己表現や読解力の基盤となる語彙を増やし、確実に習得すること。 ②自分と異なる意見を尊重し、自分の意見を英語で表現する力を身に付けること。 ③比較的ゆっくり話されれば、身近なことに関する話の概要や情報を聞いて理解できるようになること。 ④教科書レベルの英文であれば、辞書を使わずに概要を掴む力と、辞書を用いて正確に内容を読み取れる力を身に付けること。 ⑤教科書の内容について、簡単な意見を英語で話して伝えられるようになること。 ⑥教科書の英文の内容を理解し、キーワードをもとに英語で要約できるようになること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 外国語の技能（読むこと・聞くこと・話すこと〔やり取り・発表〕・書くこと）について、コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりしている。またその話題について、情報・考え・気持ちなどを論理性に注意して伝えられている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを取ろうとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・リスニングテスト・パフォーマンス テスト ・ワークシート等における記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・授業中の言語活動への取組状況 ・ノートやワークシート、提出物などの取組状況 ・振り返りシートにおける記述 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson 1	Who Is Your Hero?	[A] [B] [C]	・スポーツ選手の夢の実現に関する記事を読み、情報を整理して伝える ▷現在形／過去形／進行形／未来表現 ▶主語と述語動詞、フレーズ・リーディング	11	評価の観点 a, b, c 評価方法
5	Lesson 2	Go, Anzu!	[A] [B] [C]	・警察犬に関するニュースや資料をもとに意見を述べる ▷現在完了形／現在完了進行形／過去完了形／過去完了進行形 ▶代名詞、時間的順序を表すディスコースマーカー	13	5の通り ※学期に1回 パフォーマンス テスト実施
	Lesson 3	We Can Make a Difference	[A] [B] [C]	・世界各地の環境問題に関する説明文を読み、対策について話し合う ▷助動詞／助動詞の過去形 ▶スキミング、スキミング、論理的なパラグラフ構成	13	
6	Lesson 4	Creative Problem Solving	[A] [B] [C]	・ボイ捨てを減らす方法に関する論文を読み、問題を解決するために必要な視点を共有する ▷さまざまな受動態／前置詞 ▶具体例を含んだ主張の展開・構成	13	
7 8 9	Lesson 5	Canned Bread to Feed the World	[A] [B] [C]	・救世軍プロジェクトやパンの缶詰に関する情報を整理して伝える ▷不定詞／SV0+to do／知覚動詞／使役動詞 ▶時間や場所についての情報の活用	13	評価の観点 a, b, c 評価方法
	Lesson 6	Could We Have a Real Jurassic Park?	[A] [B] [C]	・恐竜再生に関する情報を整理し、自分の意見を書く ▷動名詞／SVC（分詞） ▶原因・結果を表すディスコースマーカー、桁の大きな数字の活用	13	5の通り ※学期に1回 パフォーマンス テスト実施
10	Lesson 7	Behind the Price Tag	[A] [B] [C]	・相手の意見に賛成・反対を表明し、理由を説明する ▷SVOC（分詞）／分詞構文 ▶賛成／反対を表明し、説得力のある理由を含んだ主張の展開・構成	13	
11	Lesson 8	The World's Winter Festivals	[A] [B] [C]	・日本や世界の祭りの共通性を整理してまとめる ▷比較に関する表現／従属接続詞 ▶類似性や共通性を示す表現、情報を整理するためのポイント	13	
12 1 2 3	Lesson 9	Slackers in the Ant Nest	[A] [B] [C]	・働かないアリに関する説明文を読み、概要を理解する ▷関係代名詞／関係副詞／関係代名詞の非制限用法 ▶文章からイメージ図を描いて概要を捉える	13	評価の観点 a, b, c 評価方法
	Lesson 10	Capturing the Reality of the World	[A] [B] [C]	・フォトジャーナリスト安田さんの仕事や思いを整理して伝える ▷仮定法過去／仮定法過去完了／仮定法を使った表現 ▶人物の紹介記事に必要な要素	13	5の通り ※学期に1回 パフォーマンス テスト実施

計128時間（55分授業）

7 課題・提出物等

・各単元のパートごとに教材文の英語要約を課します。本文の内容理解とともに、語彙や文法を正しく使って要約する練習を継続します。また、要約文をもとにした言語活動なども行います。 ・各単元の終了後に振り返りシートの提出、定期考査終了後にワークブック等の提出を求めます。 ・学期に1回程度パフォーマンステスト（話すこと・書くこと）を予定しています。詳細については授業内で説明します。設定された条件などを確認し、課題に取り組んでください。 ・隔週でALTとの授業があります。さまざまな話題についてALTの母国や世界の国・地域などの情報をもとに聞いたり話したりする活動を設定します。積極的に英語を使ってコミュニケーションを取るようにしてください。
--

8 担当者からの一言

この科目では基本的な文法事項や語彙・表現を理解し、それらを活用できるようにしていきます。また、各単元において、読んだり聞いたりしたことをもとに英語で要約する言語活動や、トピックに関連して身近なことについて英語でやりとりをしたり、自分の考えを表現したりする言語活動もあります。

基本事項を定着させるには、予習で学んだ内容を授業中で活用し、復習で見直して次につなげるというサイクルが欠かせません。さらに、やり取りや発表を通して他者の意見や価値観・考え方などを知り、意見や主張の論理展開などに取り入れたり生かしたりできるよう、授業時間中の学習活動を大切にしましょう。ロイロノートやGoogle Classroom等が出される指示もこまめにチェックしてください。

(担当 圓堂 愛子 中村 直子)